

浜松市立伊目小学校 コミュニティ・スクールだより

コミュニティ・スクールについて

学校運営協議会を設置している学校のことです。伊目小学校では令和3年度から導入されました。学校運営協議会には、保護者や地域のみなさんも学校運営の当事者として計画づくりから加わります。

保護者や地域のみなさんの声を学校運営に生かして、地域と一緒に「特色ある学校づくり」を進めていきます。

2/10(金)第4回学校運営協議会開催

伊目小学校学校運営協議会メンバー

会長

・白柳和義（元自治会長）

副会長

・加茂俊武（市議会議員）

委員

・山田正典（自治会長）

・名倉気津治（前自治会長）

・浜田改一（みのり会会長）

・松浦真人（祭典実行委員長）

・久保直人（前子供会会長）

・太田かおり（学校支援コーディネーター）

・佐藤洸（PTA会長）

・濱田史子（PTA副会長）

令和4年度 伊目小学校学校評価について

学校から

児童、保護者、運営協議会委員、教員のアンケートから、「ふるさと伊目」を愛して、行事に積極的に参加している児童の割合が高いことが分かる。また、保護者、運営協議会委員、職員のアンケートから、学校・保護者・地域が連携して学校行事に取り組んでいるということが、学校の強みであるということが分かる。また、児童と保護者、職員のアンケートから、子供たちが安心して楽しく学校に通ってきている様子がうかがえる。

また、学校がブログ等を通じてたびたび情報発信をしていることや授業の中で外部人材を活用し、様々な方の話を聞く機会を多く確保していることを保護者や学校運営委員は高く評価している。

一方、進んで挨拶をしたり読書をしたりすることや進んで体を動かすことに関しては、物足りなさを感じる児童、保護者、委員が一定数見られる。

委員から

・「いじめのない生活をしている」の項目では、「そう思わない」と答えている児童が5%いる。少数の意見を意識することが大切である。

・「進んで挨拶をする」の項目の評価が低いのは、コロナ禍ゆえ、人と人との接触を避ける風潮にあるため、大きな声で挨拶をするということがしづらい環境になっているからではないか。

・子供たちがうまく脱コロナしていくことができるように、学校でも適切に指導して行ってほしい。

令和5年度 生き生き学校と伊目大運動会について

・生き生き学校は夏（遠泳）と秋（ウォークラリー）で実施する。

・地域の種目も入れた形で午前開催とする。

令和4年度 学校運営協議会の振り返りについて

・学校と地域をつなぐとともに、子供たちへの教育の充実のために主体的に協議することができた。

・学校行事、地域活動に児童は積極的に参加し、学校・保護者・地域とのつながりを実感した。課題は学校運営協議会の存在や目的、活動内容等が保護者や地域に定着していないことである。

